

<h1>そだて</h1> <p>第 192 号</p>	<p>小千谷市 青少年育成センター</p>	<p>〒947-0031 小千谷市土川1丁目5番53号 Tel 0258-82-6750 Fax 0258-82-6750 相談専用電話 82-6771 e-mail: s-center@city.ojiya.niigata.jp URL http://www.city.ojiya.niigata.jp/s-center/</p>
-----------------------------	---------------------------	---



「苦悩する子どもたちへ」

育成センター 相談員 小西美代子

「私の息子は、薬物依存症です。」と言えるようになるまで長い日数がかかりました。10年前に病気を知り、それから今まで様々な出来事にあい、ひどく混乱する中で、いろんな所に足を運び、沢山のひとと出会い、対応について、病気について、学ばせてもらい、そのひとつひとつに向き合ってきました。

私はたくさんの方々から助けていただいて、息子の回復過程を共に歩めるようになりました。身近に相談できる人も出来ました。そして、平成14年に県内で、安心して相談できる場（秘密が厳守される）として、家族会を主人と立ち上げました。毎月第1月曜日に長岡市健康センターで例会を開いています。そこでは、同じ悩みを抱えた家族と様々な話ができます。混乱している状態からまず解放されること、そして病気について知ろうということをやっています。

また、今年から中学生に直接話しかける「家族の体験談」という講話の機会をいただきました。私が息子との関係で築くことの出来なかったこと、気づいてあげられなかったことを、ちょうどその年代の今を生きている中学生が聞いてくれるのなら話してみようと考えました。この活動を通して「自分を大切にしたい生き方をしてほしい」というメッセージを送りたいと願って…。

生きる辛さを感じ始めて、薬物を使い出したという年齢は中学の頃からが多いのです。不安・退屈・寂しい・やせたい・友だちにすすめられて・ちょっとカッコいいかな・スカッとしたい等をきっかけに手を出してしまうようです。

薬物の入り口というと、「たばこ・酒・大麻・シンナー・市販薬・処方薬等」が挙げられます。どの家庭でも、身近な所でも簡単に手に入るものです。

県内の薬物依存症者は、主に酒・市販薬・処方薬です。今、報道されている大麻についても、高校生くらいまで、入ってきているようです。薬物乱用教育を受けていない大人の意識をもう少し高めていくことも大切なんだろうと感じています。

「薬物依存症」は、「痛みの病」「寂しさの病」と言われています。誰でも、陥る可能性のある病気です。薬物に対しては、多くが非行、犯罪という形で認識されていますが、「依存症」は、やめたくてもやめられない病気です。依存症は本人の意志では解決できない「病気」であると、とらえることが大切なことも知ってほしいと考えています。

これからも、未来ある子ども達の健やかな成長を願って私のペースで努力していきたいと思っています。